■基礎工事

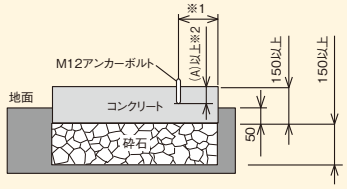
- 満水時の質量に十分耐える基礎工事を行う。(コンクリート圧縮強度を18MPa以上にする。)
- 床面は必ず防水・排水工事を行う。
- 地震時の転倒防止のため、必ず脚をアンカーボルトで固定する。
- アンカーボルトは座金付のナットまたは、平座金を組み合わせたナットで固定する。
- 施工要領については、アンカーボルトの説明書に従って施工する。
- アンカーボルト位置は壁からの距離と貯湯ユニットの寸法を考慮して決定する。
- 壁中にラス網がある場合は、電気的に絶縁された状態になるようにしてください。
  (アンカーボルトがラス網に接触して漏電による火災、感電のおそれがあります)
- 屋内に設置する場合は、必ず防水処理をする。(100mm以上の防水堤を設ける)

⚠注意

地震時の転倒防止のため、必ず脚をアンカーボルトで固定してください(M12アンカーボルト)
2階以上に据え付ける場合は、転倒防止金具で本体上部も固定してください。

地震などによって本体が転倒してケガをするおそれがあります。

おネジ形あと施工アンカーボルトの施工例(単位:mm)



※1. アンカーボルトの埋込み長さの2倍を目安。
※2. (A)は下記の「製品別アンカーボルト施工と耐震クラス」の埋込み深さ(A)による。

製品別アンカーボルト施工と耐震クラス

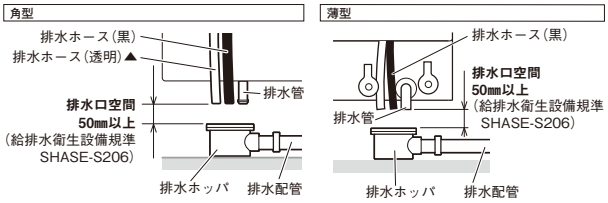
	貯湯ユニット		耐震クラス	脚部 M12おネジ形あと施工アンカーボルト		備考
				埋込み深さ(A)	引張耐力	
脚のみの固定	角型	370L	S	70mm以上	9.1kN	パワフル高圧タイプのみ
			A	60mm以上	5.8kN	
		460L	A	70mm以上	9.1kN	
	薄型		B	50mm以上	3.6kN	

	貯湯ユニット		耐震クラス	脚部 M12おネジ形あと施工アンカーボルト		転倒防止金具部 M10おネジ形あと施工アンカーボルト	
				埋込み深さ(A)	せん断耐力	埋込み深さ	引張耐力
脚と転倒防止金具による固定	角型	370L	S	60mm以上	1.4kN	40mm以上	2.7kN
		460L	A	60mm以上	1.4kN	40mm以上	2.7kN
	薄型		B	50mm以上	1.2kN	40mm以上	1.7kN

■排水処理のしかた

貯湯ユニット

- 排水配管は、内径50mm以上で90℃以上の耐熱性と耐食性があるものをご使用ください。
  耐熱硬質塩化ビニル管(HT管)など。
- 排水量は25L／分を確保してください。
- 下水口や浄化槽へ排水配管を導く場合は、トラップ付の排水ホッパを使用してください。
  トラップ付の排水ホッパでないと、下水口や浄化槽などから逆流する下水ガスによって、排水配管および製品が腐食し、故障する場合があります。
- 排水パイプなどに直接配管を接続すると、排水ホース内が封水し凍結して機器を破損するおそれがあります。

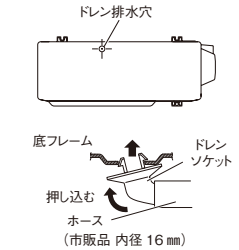


ヒートポンプユニット

- 1年を通して、沸き上げ運転中はドレン水が出るため、確実に排水ができる工事を行ってください。
  (1分間に約500mLのドレン水が出ることがあります。)

■ ドレン排水管工事について

- ドレン排水するときは、ドレンソケットを使用してドレンホースを通して排水するか、下部に排水溝または排水ホッパを設けて直接排水してください。
- ドレンソケット使用時は底フレームにきっちりと取り付けてください。水漏れの原因になります。
- ドレンソケットを底フレームに取付けるときは、ドレンホースをつないでから取付けてください。
- ドレンホース取付け時には、必ず下り勾配を付けてください。たるんでいたり、逆勾配にすると、ゴミが詰まって水漏れの原因になります。
- ドレンホースの先端は、溝や配管に差し込んだり、水につけたりしないでください。
- ドレンホースに冷気があたらないように引き回してください。冷気があたるとドレンホース内部で水が凍結し、水漏れの原因になります。



- ヒートポンプユニットは経年により傾くおそれのない場所に水平に据え付けてください。
  傾くと、ドレン水が漏れる、および機器の故障のおそれがあります。また、ドレン水の排水ができる場所に据え付けてください。

■ 凍結のおそれがある地域では

- ヒートポンプユニットのドレンソケットは使用せず、下部に排水溝または排水ホッパを設けてください。(ドレンホースを使用すると、ドレン水が底フレーム内で凍結し、沸き上げができなくなることがあります。)
  ドレンホースを使用する必要のある場合は、凍結防止ヒーターによる凍結防止工事を行ってください。
- 凍結したドレン水が、底フレーム内に堆積するおそれがある場合は、ドレンパンヒーター(別売品)をご使用ください。
  別売品の有無はP.44でご確認ください。

■ 積雪地域に据え付ける場合

- ヒートポンプユニットを積雪量に応じた高置台に取付けてください。
- 吸込口、吹出口が積雪でふさがれたり、天板に雪が積もったりすると故障の原因になります。
  別売品の防雪屋根、防雪板(左、後)や防雪フード(吹出、吸込側面、吸込背面)を取付けてください。